

所属・資格 体育学科・助教

申請者氏名 吉田 明子

| | | |
|---|---|--|
| 研究課題 | | 日本におけるストリートダンスの社会的意義の探求 |
| 報告の概要 | 研究目的 および 研究概要 | <p>中学校のダンス授業において生徒の関心が高い「現代的なリズムのダンス」の導入には、アメリカのサウスブロンクス地区発祥のヒップホップ文化から派生した、総称してストリートダンスと呼ばれるダンスが日本に根付いたことにある。この文化は人種差別からの自己表現として生まれた若者文化であり、学校教育においてどのような教育・社会的意義を持って取り組むべきかという議論が度々起きている。そこで本研究では、学校教育内外におけるストリートダンスの社会的意義を多角的に捉えることを最終的な目標として、第一に学校教育におけるリズムダンスの学習過程に着目した。そして、ステップ習得学習という受動的な内容に陥りがちなリズムダンスの授業において、学習者がどのように「リズムにのる」という動感を形成していくかを毎回の授業後に学習者が記述した内容から分析することとした。</p> |
| | 研究の結果 | <p>本研究では、リズムダンスの運動の基礎である「ダウン」のリズムを用いた「サイドランジ」というステップの学習過程を対象として、現象学的な見地から学習者の自己観察記録における運動内観の報告内容をもとに、動感レベルおよび動感能力の把握を試みた。その把握のためには、指導者側が身体文化としてのストリートダンスの動感構造を理解しておくことが必要なプロセスであるということが明らかとなった。そして、学習者の自己観察記録をピランの意識構造4分類に基づいて朝岡が構造化した4区分によって分析した結果、多くの受講生が「サイドランジ」の学習過程において、運動の遂行に伴う受動的な感覚や能動的な知覚の動感レベルに達しながらも、最も高い動感レベルである「自分の運動を対象にした能動的知覚」の獲得には至らなかったことが明らかとなった。</p> |
| | 研究の考察・反省 | <p>本研究の結果から導き出された課題を受け、まずは、身体文化としてのストリートダンスの様々なステップについて、動感構造分析をさらに進めていきたいと考えている。その理由は、自由に踊るダンスというだけではなく、文化的背景を知り、動感構造を知ることが、新たなダンス授業の社会的意義につながると考えるからである。そして、こうした研究と並行して学校内外のストリートダンスの動向に注目し、日本独自の発展をしているストリートダンスの社会的意義の多角的な分析につなげていきたい。</p> |
| 研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所 | <p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。 【研究発表】なし 【研究成果物】</p> <p>テーマ : リズムダンスのサイドランジ学習過程における動感レベルとその内容に関する例証分析 —保健体育科教員の養成課程における学習者を対象として—</p> <p>誌名 : 教師教育と実践知 巻・号 : 第3巻, pp. 45-54. 発行年月日 : 2018年5月30日 発行所 : 日本大学文理学部教職センター</p> | |
| 研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者 | <p>テーマ : 就学前期から小学校期における子どもの運動遊びとスポーツの構造分析および性差の検証 —『4～11歳のスポーツライフに関する調査2017』の二次分析—</p> <p>誌名 : 桜門体育学研究 巻・号 : 第53集, pp. 75-88. 発行年月日 : 2018年9月30日 発行所 : 桜門体育学会</p> | |